

**【司会】** それでは定刻になりましたので、ただいまから大阪市環境審議会第1回環境基本計画策定部会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。

本日の司会を担当いたします環境局環境施策部環境施策課の吉村でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは開会に先立ちまして、環境局長の北辻からご挨拶申し上げます。

**【北辻環境局長】** 環境局の北辻でございます。

大阪市環境審議会環境基本計画策定委員の皆様方には大変ご多用の中、またこのような遅い時間にかかわらずご出席を賜りまして本当にありがとうございます。

ご案内のとおり、SDGsを柱とする2030アジェンダまたパリ協定というのが2015年に採択されております。また、我が国におきましてもそれを受けて、本年4月に第五次環境基本計画というものでも見直しをされております。

そういう中で、時代の本当に大変な大転換期を迎えているという認識をしております。

また、本市におきましては、人口は今のところ増加傾向が続いているのですが、今後、地域間における不均衡ということに伴いながら、やがて人口減少・高齢化が進展していくと見込まれておりますので、経済、社会、さまざまな影響を与えるということが懸念をされております。

そのような中で、現在、2025年の大阪・関西万博招致に取り組んでおりますけれども、持続可能な社会・経済システムの構築というのが重要なテーマの1つになってございます。

2030年のSDGsの達成に貢献するというのがコンセプトにもなっております。

こうした状況を踏まえまして、地域や市民、事業者とのパートナーシップを強化しながら、環境はもとより、防災計画、地域振興など、本市が進めますさまざまな施策において環境負荷の低減を追求し、持続可能な社会に向けたパラダイムシフトというのを実現してまいりたいという考えでございます。

委員の先生方には、本市の新たな環境基本計画のあり方につきまして、活発なご審議をいただきましてご意見を賜りたいと考えています。

部会開催に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【司会】** それでは、本日、初めての部会でございますので、ご出席いただいております委員の皆様をご紹介させていただきます。

下田環境基本計画策定部会長でございます。

【下田部会長】 下田です。よろしくお願いします。

【司会】 藤田委員でございます。

【藤田委員】 藤田でございます。よろしくお願いします。

【司会】 今西委員でございます。

【今西委員】 今西です。よろしくお願いします。

【司会】 大石委員でございます。

【大石委員】 大石でございます。よろしくお願ひしたいと思います。

【司会】 岡委員でございます。

【岡委員】 岡と申します。よろしくお願ひいたします。

【司会】 原委員でございます。

【原委員】 原です。よろしくお願いします。

【司会】 なお、浅利委員につきましては、本日は学務のためご欠席でございます。

次に、本日の資料を確認させていただきます。お手元の資料ですが、まず「次第」。続いて「配席図」。続きまして、「環境基本計画策定部会委員名簿」、続きまして、資料1「環境基本計画改定スケジュール」、続いて資料2「大阪市環境基本計画 骨子案」、資料3「環境基本計画にかかる「未来社会のデザイン」募集要項」、続きまして参考資料1「大阪市環境基本計画の改定について(諮問)」、続いて参考資料2「本市個別計画」。続いて参考資料3「第35回環境審議会議事要旨」、続いて資料4「第35回環境審議会会議録、並びに会議資料1及び会議資料1-1、会議資料4」、最後に参考資料5「大阪市環境審議会規則」でございます。

資料の漏れ等はございませんでしょうか。

本日の議題に入らせていただきます前に、部会での審議内容の公開に関しましてご説明させていただきます。この部会は公開の扱いとなっております、会議録を作成の上、ホームページに掲載いたします。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

進行につきましては下田部会長にお願いしたいと思います。下田部会長よろしくお願いします。

【下田部会長】 では私のほうで進行をさせていただきます。以降の進行を務めさせていただきますが、まず、今回の環境基本計画の改定について、事務局からご説明をお願いします。

【岡本環境施策課長】 環境施策課長の岡本でございます。着席してご説明をさせていただきます。

初めに資料1をご覧ください。計画策定のスケジュールでございますが、7月23日の環境審議会にお

きまして、環境基本計画の改定につきまして市長から審議会に諮問を行い、審議会のもとに、この環境基本計画策定部会が設置をされております。

本日は、事務局が作成しました計画の骨子案を中心にご議論をいただきたいと考えております。

今年度の予定ですが、本日のご議論のほか、後ほどご説明いたしますが、「未来社会のデザイン」というテーマで、市民や事業者等のお考えもお聞きした上で、素案を事務局で作成いたしまして、来年1月ごろ第2回部会を開催いたします。それから2月ごろ審議会を開催してご審議をいただき、素案を取りまとめてまいりたいというふうに考えております。

その上で、来年度は年度当初にパブリックコメントを素案の段階で実施いたしまして、その結果を踏まえて事務局のほうで計画案をブラッシュアップしてまいります。

そして来年の夏、7月ごろ第3回の部会、それから8月ごろ審議会でご審議をいただきまして、9月ごろに審議会から答申をいただいた上で来年度中に計画を策定してまいりたいというふうに考えております。

続きまして、資料2をご覧ください。

計画の骨子案でございますが、表紙の裏のほうに目次がございます。そちらをご覧ください。

第1章から第5章までの章立てとしております。

初めに第1章でございますが、1ページをご覧ください。

第1節の「計画策定の意義・背景」でございますが、大気や水質などの都市環境は着実に改善してきたところでございますが、地球温暖化や海洋汚染の深刻化など、地球環境問題は危機的な状況になっております。世界におきましては、パリ協定の採択やESG投資の拡大など、持続可能な社会に向けた動きが加速しており、時代は大きな転換点を迎えていると認識をしております。

こうした中で、持続可能な社会に向けたパラダイムシフトを実現していくためには、市民、事業者など幅広い関係者とのパートナーシップのもと、経済・社会・環境の統合的向上に取り組んでいく必要があります。その指針となる計画の策定が求められているというふうに考えております。

次に第2節の「計画の位置づけ」でございますが、次の2ページのほうに概念図をお示してまいります。

本市では、市政全般に関する計画及び方針のもと、分野別、課題別の計画を策定し、各計画に沿ってさまざまな施策・事業を展開しております。環境基本計画は条例に基づく環境分野のマスタープランという位置づけでございますが、分野別計画の1つということになります。

今回の改定では、各分野別計画、課題別計画に位置づけられました施策・事業を洗い出しいたしまして、環境という切り口で再整理しますとともに、環境面から横串を通す機能を強化いたしまして、持続

可能な開発目標・SDGsの達成に貢献していくことを明確にしていきたいと思いますというふうに考えております。

第3節の「計画期間」でございますが、目標年度はSDGsのゴールに合わせて2030年度とし、中間時点である2024年を目途に見直しを行ってまいりたいと考えております。

次に3ページをご覧ください。第2章の第1項のところで「環境をめぐる国内外の動向」をまとめております。

一番右のほうになりますが、2015年にはご案内のとおりSDGsやパリ協定が採択されましたほか、2018年には我が国におきまして第5次環境基本計画が策定されまして、持続可能な循環共生型社会の実現という方向性が示されますなど、持続可能な社会に向けた動きが国内外で加速しているという状況でございます。

続きまして4ページをご覧ください。下のほう、「③本市の現状と課題」について、この③のところで記載をしております。

5ページをご覧ください。

具体的に1つ目でございますが、「低炭素社会の構築」に向けましては、東日本大震災をきっかけとしました原発停止の影響がありますものの、温室効果ガスの排出量は削減が進んでおります。中ほどの「循環型社会の形成」に関しましては、ごみ焼却量の削減が進んでおります。下のほう、快適な都市環境の確保に向けましては、大気環境や水環境の改善が進んでおります。

続きまして6ページでございますが、みどりの量は着実に増加をしておりますが、みどりに関わる市民の満足度はおおむね横ばいで推移をしております。

続きましてヒートアイランド現象に関しましては、平均気温の上昇や熱帯夜日数の増加の傾向が確認されておりますが、熱帯夜日数につきましては2000年ごろを境にトレンドの転換が見られるということでございます。

続きまして7ページをご覧ください。こちらは大阪市の人口をお示したものでございまして、足元では増加が続いておりますが、今後は減少に転じ、地域的な不均衡を伴いながら高齢化も進展するというふうに予想をされております。

続きまして8ページをご覧ください。経済に関わるデータでございますが、大阪経済の全国シェア低下傾向が続く中で、明るい材料としましては、インバウンドが増加をしております、大阪経済をけん引しております。しかしながら、今後人口減少や高齢化が進展いたしますと、地域経済やコミュニティの弱体化、災害弱者の増加など、経済や社会にさまざまな影響を及ぼすことが懸念されております。

続きまして第2節の「計画の方向性」でございますが、まず「基本的な視点」のところでございます。

環境というものは、バランスの上に成り立っており、人間も環境の一部である。そして、健全な環境という基盤がなければ、経済・社会を持続的に発展させ、人間が輝く未来社会を実現することはできないというふうな認識の上に立ちまして、4つの基本的な視点を設定したいというふうに考えております。

1つ目の視点は、計画の策定・推進によりまして、SDGsの実現に寄与していくという視点でございます。

2つ目が、経済・社会・環境の統合的向上という視点でございます。

3点目は、一人ひとりの人間を大切にするという視点。SDGsでいいます、誰一人取り残さないという考え方も通じるものでございます。

4つ目の視点が、ライフスタイルや技術などあらゆる観点からイノベーションを創出するという視点でございます。

続きまして9ページをご覧ください。第2項の「ビジョン、目標」のところでございますが、「低炭素社会の構築」、「循環型社会の形成」、「快適な都市環境の確保」という現行計画の3本柱に沿った取組みを、「すべての主体の参加と協働」によって進めていくことによりまして、恵み豊かな環境を保全いたしますとともに、健全な経済の発展と、安全安心の確保を図りまして、持続的で活力ある環境先進都市というビジョンの実現を目指していくこととしております。

続きまして10ページでございますが、10ページのところに「ビジョン」と「目標」と書いておりますが、「目標」のところでございますけれども、目標につきましては先ほど申し上げました3本柱ごとに設定をしておりまして、分野別及び課題別の各計画で設定している目標と整合を図っております。

続きまして11ページをご覧ください。第3章、「基本的な施策の体系」でございます。

計画の方向性と施策の体系につきましては、現行計画の骨格をベースとしまして施策・事業の洗い出しを行っているところでございます。今回、SDGs活用の1つとして計画に位置づけました施策が、さまざまな課題の解決に直接的・間接的につながっていることをお示したいというふうに考えておりまして、施策ごとに関連するSDGsのゴールのアイコンを張りつけております。

先生方への事前説明の際には、関係性の密接なゴールに絞って張りつけるべきとのご意見をいただいたところでございますが、施策とSDGsのゴールをどのようにひもづけするかということにつきましては、後々、我々の施策・事業を点検・評価していく際に、このひもづけを活用するといったことも念頭に置きながら、施策・事業の洗い出しの中で精査してまいりたいというふうに考えております。

続きまして12ページをご覧ください。第4章の「施策展開の戦略」でございますが、大阪市は、基礎的自治体として、幅広い市民生活の領域全般にわたりの確に対処するとともに、国際的な大都市としての役割・責任を果たしていくことが求められていると認識しております。そして、この計画が目指すビ

ジョンを実現していくためには、市民、事業者、行政など各主体を構成する一人ひとりが、環境とみずからの関係について理解を深めて責任を自覚し、それぞれの役割を果たしていくことが重要ということで、5つの戦略を定め、施策を展開してまいりたいというふうに考えております。

1つ目でございますが「地域、市民、事業者との連携強化」、2つ目として「経済、社会、環境の統合的な向上」、3点目が「新しい技術、イノベーションの創出や活用」、4点目が「国際展開の強化」、そして5点目が「持続可能で効果的な行政運営」という戦略でございます。

最後に13ページの下のところ、第5章をご覧ください。「計画の進行管理」について記載しております。

1つ目、第1節の「推進体制」でございますが、環境面から横串を通すための庁内横断の体制として、市長をトップとする組織を活用してまいります。また第2節では、施策の実施状況、成果を毎年度把握、分析し、PDCAサイクルを回していくことを記載しております。

資料2に関しては以上でございます。

続きまして資料の3をご覧ください。計画の骨子の説明の際にも触れましたが、今回の計画策定に当たりましては、市民や事業者を構成する一人ひとりが環境とみずからの関係について理解を深めて責任を自覚して、それぞれの役割を果たしていただくということが大変重要であるというふうに考えておりまして、今回の計画策定を契機といたしまして、市民や事業者の皆さんと一緒に持続可能な社会を目指してまいりたいというふうに考えております。

そのために皆様のアイデアや思いをお聞きして、例えばこういったアイデアや思いを、あるいはビジョンをビジュアル化して掲載するなど、計画に反映してまいりたいというふうに考えておりまして、「未来社会のデザイン」というテーマで公募を実施してまいりたいと考えております。

募集期間につきましては、一番上のほうに書いておりますが、10月から12月にかけての約2カ月を確保してまいりたいというふうに考えております。

資料3については以上でございます。

最後に参考資料でございますが、説明については割愛をさせていただきたいと思っております。

事務局からの説明は以上でございます。

**【下田部会長】** ありがとうございます。本日は、今ご説明いただいたこの内容について19時50分くらいまで議論いただくことが主題になっております。

それでは、資料について何かご質問とかご意見とかありましたらお願いします。

はい、どうぞ。

**【大石委員】** 今ご案内いただきました環境基本計画骨子案ですが、全体としては今のSDGsへの貢

献や、環境保全への貢献など、国際的な世界の潮流を踏まえた計画だと思えます。

この中ですこし気になりましたのは、ビジョンのところで、環境先進都市という言葉がまだ使われている点です。今、内閣府等々でも環境未来都市ですとかSDGs未来都市ですとか、そういう言葉が使われています。あえて環境先進都市を掲げられているのは少し説明をいただきたいと思えます。内容的にはご案内どおり脱炭素ですとか、イノベーション、インフラ、成長というようなキーワードで、政府自身が大きく舵をとっています。そういう意味で、その点も含まれているのかなとは、今のご説明の中では思っておりました。もう一つは、このタイトなスケジュールの中で、市民の意見を聞くという、やはり多様なステークホルダーの協力が不可欠という点において、本当に意義があるのではないかと私は思います。感想めいたことを含めて申し上げます。

**【下田部会長】** 今のご質問に対しては。

**【岡本環境施策課長】** 環境先進都市という言葉遣いについてでございますが、大阪には、世界を中でリードしていける企業もたくさんございます。我々も、環境の分野で世界の中で貢献してきた実績もございます。そういう意味では、世界を環境面でリードしていける都市を目指したい、ということで環境先進都市という言葉にしております。現行の計画でも環境先進都市という言葉を使っています。

**【下田部会長】** SDGs未来都市の募集があると思いますが、現時点でそういう予定や計画はありますか。

**【岡本環境施策課長】** はい。SDGs未来都市は3年間の募集期間となっております、今年が初年度でしたが、3年以内の期間の中で、手を挙げていくことにしております、今年の11月に万博の開催地が決まりますので、万博の開催地に決まれば、万博を大きな柱にして、SDGs未来都市に立候補するという方向で、庁内で話を進めているという状況でございます。

**【北辻環境局長】** ちょっと補足しますと、この大阪市環境基本計画の骨子案の2ページに、大阪市政全般に関する計画と方針が書いてありますが、今の大阪市環境計画というのは、分野別計画の1つなのですが、その上位に「大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」というものがあります。これにつきましてもSDGsの考え方を入れて、抜本に改定し、大阪市の環境基本計画とあわせて取り組むということで決めておまして、市長もそのトップに立っていただいて市長部局で進めてまいります。大阪市環境基本計画は、SDGsの中の多分野に関わっておりますので、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも影響を及ぼすわけなのですけれども、そういうことで整合性をとりながら、全体の大阪市の総合計画を、SDGsを中心に変えていく。その中で、SDGs未来都市に立候補していこうということで話が進んでいるので、今の話は、今のその先進都市というのは環境基本計画の名前をそのまま使っておりますので、そういう議論の中で、よりふさわしいネーミングがあれば、そういう形に変えていくのもそれは当然ありか

など思っています。

**【下田部会長】** 結論としては、今はこのままでということでしょうか。

**【北辻環境局長】** ええ。

**【大石委員】** 今ご意見がありましたように、大阪市がこの間環境問題を良くしてきたということ、地域的に、省エネ、脱酸素の取組みを推進し、それをベースに国際展開等がなされるということです。非常にいいことなのですが、少し気になりましたのは、SDGsの3番目のゴールで、健康というキーワードが書かれたところがありますけど、やはり安心、安全、健康という点においては、都市環境の確保が大事だということで、国の環境基本計画の中に、環境リスクの管理ということ、ちょっと下支えする施策が位置づけられていると思うのです。そういう意味では、それが見えるように絵姿をつかって、やはりアジアの諸国に、ビジネスといいましょうか、環境・省エネ技術を展開して、現時での経済の活性化、あるいは現時での地域の環境改善に資すると同時に、大阪、関西の経済の活性化につなげていく。これはまさしく、まち・ひと・しごとの計画につながっていくものでございます。少し、そういった見えるスタンスでつくられたらどうかというように思います。

**【下田部会長】** いろんな委員のご意見あるかと思いますが、ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

**【今西委員】** この検証のことで、私が気になったのは、13ページの推進体制で、大阪市地球温暖化対策推進本部を活用するとあることです。環境基本計画は必ずしも地球温暖化対策にとどまらない幅広い政策ですので、基本計画の守備範囲と一致していないのではないかと思います。

**【下田部会長】** いかがでしょう。

**【岡本環境施策課長】** そうですね。確かに地球温暖化以外の分野も、環境基本計画には含まれていることは認識しております。一方で、この地球温暖化対策推進本部という体制が、市長をトップとする全ての局、区が入った組織体制ということで、今、実際に動いている組織としてございますので、実際の進め方としては、この手段を使わない手はないだろうと思っております。

名称なり所掌事務等については柔軟に対応してまいりたいと思いますし、必要に応じて変更することも検討したいというふうに思います。

**【池上環境施策部長】** 補足しますと、本部の中に、新しく環境基本計画に係るプロジェクトチームを別途つくっております。プロジェクトチームなので外には出てこないのですが、プロジェクトチームの下に課長級で構成するワーキングチームも備えています。ただ、名称はわざわざ変えていないという形になります。

**【今西委員】** 2ページ目の環境基本計画の分野別のマスタープランについて、横串を通す機能を



強化していきたいという説明をいただきましたが、それがこの基本計画の骨子案のどこに読み取ることができるのでしょうか。

**【岡本環境施策課長】** 1つは、横串を通すための重要な手段が、先ほども言いました庁内の体制ということで、これはまさしく庁内横断の体制でございますので、こちらの体制で策定し、推進していくということで、全庁的に、庁内横断的に進めていくことができます。

それから、例えば13ページでございますが、こちらのほうに施策展開の戦略ということで、5つの戦略を設定しておりまして、具体的に申し上げますと、経済、社会、環境の総合的な統合的な向上などの戦略を掲げております。

まさに、環境でだけではなく、経済ですとか社会、具体的にいうと福祉とか、例えば防災という、そういった観点も統合的に向上していくという形で進めていくというふうに位置づけておりまして、そこから、従来、福祉の計画であったり、経済のいわゆる計画であったり、防災の計画に位置づけていた計画も、環境と関わりがあるということで、この環境基本計画に取り込んで、一緒に推進してまいりたいという趣旨で、こういう記載をさせていただいております。

**【今西委員】** ありがとうございます。実際に横串を通すとすると、現在、既に設定されている他分野の分野別の計画に対しても働きかけて、望ましい姿に誘導するというか、意見を述べて全体的に統合された形にしていけないといけないと思います。環境局が分野別の基本計画の策定にも強く関与していくというアプローチを考えておられるのでしょうか。

**【岡本環境施策課長】** おっしゃっているとおりでございます。例えば、環境部局の中で生物多様性というのは非常に大きなテーマで、この間、生物多様性戦略をつくらせていただいたのですが、生物多様性の保全は、みどりの分野でも重要ということで、生物多様性戦略を策定したということに関係部局には重く受けとめていただいて、緑化を進める際に生物多様性について、十分考慮に入れて進めていけないといけないというふうに、庁内で認識をしていただいたところでございます。

緑化だけではなくて、農業の基本計画というの、今年つくったのですが、まさしくそれも生物多様性戦略と密接に関連する計画ということで整合を取りながら策定をしていただいております。そういった形で我々が策定しました計画と整合するように、順次、関係局に対応していただいております。関係部局において環境の課題についても解決することも含めて、施策・事業を推進していただくという形で、我々としては計画を推進していきたいと思っています。

**【今西委員】** そのあたりのところを、単に図で整合をとると書いてあるだけではなくて、基本計画に文章としてきちんと書かれていた方が、実際に出向いて意見を述べる時の根拠にもなりますので、よいのではないかと思います。

**【北辻環境局長】** ちょっと補足しますと、2ページの表であります、大阪市環境基本計画の下に個別計画として地球温暖化対策実行計画、エネルギー地産地消、エコカー、木材利用、一般廃棄物処理等があります。また、さらに個別計画が下にぶらさがっておりますけれども、この個別計画策定の過程におきまして、大阪市全般の施策を盛り込むというということで、各局と連携をしながら、もう既に入れています。先ほど課長の説明にもありましたように、生物多様性戦略の中には、そういう緑化の話もあるとか、もしくは、そういう学習、啓発の活用とか、木材の利用とか、いろいろ入れています。

例えば、家庭系ごみの収集輸送事業改革プランについては、できるだけ効率化を図るということと、あわせて環境事業センターの中心になる地域班というものをつくって、防災時の対応とか、もしくは高齢者の見守り、ふれあい収集といった官と民が連携したシステムを、エネルギーの地産地消については、地中熱や面的利用等、コスト的にも競争性のある、また災害時についても非常に安定感のあるそういうシステムをつくっていくこととなります。

常に個別の計画には、各大阪市全般の計画との連携というのは図っているのですが、ただそれがきわめて整然としてない。今回、環境基本計画にSDGsという観点を入れて、まずそこをきっちり整理する中で、大阪市まち・ひと・しごと総合戦略についてもそれを反映させて、大阪市の個別計画についてもいろいろと取組みをしていただこうという。SDGsという観点を入れて、そういう一本筋を通して、縦割りに陥ることなく、職員自身の意識としても、横串を刺すような、我々の一つの施策が、ほかの大阪市の施策にどう影響を持っていますよ、ということ、一人ひとりが意識できるような形で環境施策についても整理して、他所属についてもそういう取組みをやっているということを意識してもらおう。

**【岡委員】** 私も気になっているところの一つは、SDGsとまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係です。どちらの枠組みに落として行くかという点です。もう1点は、横串とおっしゃったところです。2ページの絵は横串には全然見えません。この下にある個別計画というのは、これは大阪市環境基本計画の下の個別計画ですか。

**【岡本環境施策課長】** そうです。

**【岡委員】** 個別計画そのものも、分野別計画と関係なくあってもよいと思うのですが、まずこの下の計画でもって串を刺すわけではないのですか。

**【岡本環境施策課長】** 串を刺す仕組みは既にありまして、庁内の横断的な推進本部体制という、組織体制でございます。

**【岡委員】** 各課の関心はどの程度でしょうか。

**【岡本環境施策課長】** 地球温暖化の重要性は、定着しています。

**【岡委員】** それを、どこの課でも言っていることだから、いまさらという感じなのか、それとも、だから、

自分たちのやっていることを書けばあとはそちらで書いてもらったらいいですよという感じなのですか。それとも、新しいことがあったらどんどん入れましょうという態度でしょうか。

**【岡本環境施策課長】** 環境は非常に大事だという認識は浸透しています。一方で、やはりそれぞれの立場で、最も重要なミッションがありますので、そういうミッションを実現することが最優先されるといことは確かです。

ただ、そのミッションを達成しながら、環境についても良くしていくということは可能であるというふうに考えておりますし、我々としてはそういう動きを後押しすることが横串を刺すことになっていくと思っています。財源を我々のほうで確保して、それぞれの事業のうち、環境についても課題を解決していくような事業については、後押しをさせていただくといったことも、この横串を通す一つの方法というふうに考えております。

**【岡委員】** わかりました。

**【岡本環境施策課長】** そういう仕組みを、先ほど申し上げました推進本部体制の中で構築していくこととございます。

**【原委員】** ありがとうございます。十分説明いただいて理解できました。一つポイントになるのは、持続性の観点ですね。SDGsの話もありましたが持続可能な未来にどのように向かっていくのかというトランジションの話があり、これが一つのポイントになっていると思います。

持続性を考えるときには環境、経済、社会といった多元性を俯瞰的に見ることは当然重要であります。同時に持続可能な未来につながらないといけないので、未来世代あるいは将来世代の視点がすごく大事になってくると思います。つまり、議論において、含むべきステークホルダーというのは将来世代だと思っています。現代の人たちが現代の目線から未来のことを想像し考えていくのが通常ですが、そこで出されたアイデアやビジョンは本当に未来の人たちが求めるものなのかどうかということを我々はしっかり考えないといけない。そのような観点についてもハイライトしていくことは大事なことはないかと思っています。

持続性やサステナビリティのことを考える上では、現世代と将来世代の間の利害対立やトレードオフ問題をどう克服していくのか、ということを検討する必要があります。現代の人には良い施策であっても将来の人にとっては負担がかかるという問題は往々にしてあります。例えば財政問題もそのような側面があります。つまり、問題を検討するうえで、将来世代の利益や視点を組み込んで考えていく必要があるわけで、これはいわゆるサステナビリティ問題の本質だと個人的には思っております。

先ほどパブコメの話をしていました。このテーマとして「未来の社会のデザイン」ということを取り上げられること自体は非常にいいと思います。市民の皆さまから意見を出していただいて、2030年の大

阪市の未来について意見を出していただくことになると思うのですが、むしろ回答者の皆さん自らが、大阪市の将来世代、あるいは未来人になりきって考えたときに、2030年という社会とはどのような社会であるべきか、という点で考えてもらうという方向性があると思います。現世代から将来を臨むという通常の方法ではなく、むしろ将来世代の視点から考えてもらう。将来世代の視点から、皆さんに意見を出していただくという実施の仕方もあるのではないのでしょうか。

私も将来世代の視点から現代の問題を考えるというフューチャー・デザインの研究の中で、将来世代の代弁者になりきった住民の皆さんにビジョン設計や試作についての意見を出していただく、という実践をこれまで実施してきたのですが、これまでに観察しているのは、将来世代になりきって意見を出してもらう場合(仮想将来世代)、現世代から将来を考える状況に比べて非常に独創的かつ重要な様々な意見が出てくるということです。将来世代の視点から皆さんに大阪市の将来を考えてもらうことによって、将来の視点から本当に今何をすべきか、という点を検討する、そのような思考の積み重ねの結果として将来が導かれるのだということを皆でしっかり考えるきっかけになるのではないかなと思います。

持続可能性を考えるポイントとしては、含むべきステークホルダーとしての将来世代に対する視点がこのパブコメの中にしっかり入ってくるということが非常に重要なメッセージになってくるのではないかなと思いますし、それが今回の実施内容としての大きなハイライト、注目点にもなるのではないかなと個人的には思っています。

**【下田部会長】** 2週間後に募集開始になりますけども、基本的にはこの書いてあるとおりの内容ですか。

**【岡本環境施策課長】** いえ、まだ決まったものではないので、今日のご議論の中でいただいた意見によって柔軟に対応させていただきたいと思います。

**【下田部会長】** なぜ2030年かという、この計画の目標年が2030年だからだと思うけれども、2100年のために2030年になっておかないといけないということになっているのはちょっと違うだろうし、多分、原先生も2030年でいいのかとか、2030年にしても、この書き方でいいのかとか、もし、せつかくとらんだったら、ちょっとこの文面に関して何かつけ加える部分があれば、ちょっとご意見出しておいたほうがいいと思いますけど、何かありますか。

**【原委員】** 2030年をゴール設定年とされるのであれば、それはそれでいいと思いますが、重要なのは将来世代の視点から2030年を考えるということだと思います。将来の年次の設定について、例えば2060年や2050年かもしれないし、2030年頃かもしれない。このような年次の設定自体は対象とする問題によると考えますが最も重要なのは、今の視点から将来のことを考えるのではなく、大阪に住む

将来世代として考えたときに、2030年に本当に必要とされる社会は何かということを考えるということが大事だと思います。設定年のとり方はいろいろと考え方があるかと思いますが、将来世代の視点から考えるということが最重要ポイントかと思います。

**【藤田委員】** ご報告いただいた資料3について、雑感も含めてお伝えさせていただきたいなと思います。

まず、資料2ですけれども、非常に広範な内容をまとめていただいて、この方向で進めていただければいいと感じていますが、その上で3つほど、どういってお考えなのかということを確認したいがございます。

まず、先ほど先生方のご議論の中でもございました2ページ目の整合をとるといふ部分と、3ページ目の環境をめぐる国内外の動向という図と文章がついているのですけれども、間違っているとは言わないのですが、私個人的には少なくとも国内法上は日本国憲法、通常法、基本法があるので、環境基本法だけ入っているのですが、今西先生が仰っていたと思うのですが、生物多様性基本法というのができていて、環境白書でも循環型社会推進と生物多様性と環境白書というふうに、わざわざ基本法に則した計画ということで出てきていますので、やはり国内外の動きとしては、少なくとも生物多様性基本法ということに触れた上で、文章の追加をしていただきたいなと思います。

こちらの個別法の中でも、先ほど、多様性の戦略が出たばかりですので、これはちょっと入れてほしいという思いがあります。

それ以外にも、環境関連の基本法、たくさん抜き出したものが出ておりますが、大阪市の施策とどのぐらい関係があるのかということが、ちょっとわかりませんので、少なくとも生物多様性基本法は入れておいてほしいということで。意地悪を言いますと、70年代の公害国会以降、個別の公害に対して法整備が進んだということですが、これは基本法でないのが書かれているので、その後、環境関連の基本法や計画がたくさん出て、施行されているのに、記述は結構温暖化に傾斜しているような感じがいたしますので、そのあたりは国際的な現状についても、この間、非常に重要な環境に関わる国際条約というのが出てきていますので、温暖化格差でウイーン条約なのかなとかいろいろ思いはあるのですが、どういうレベルでお知らせして、文書を書くのかということについてご検討いただきたいなというのがまず1点目です。

2つ目は、非常にいいタイミングで環境基本計画を改められるのではないかなと。時機を得た計画になると思います。先ほど大石先生からもお話があったように、SDGsの都市の宣言であるとか、第5次環境基本計画が出てきた後の基本計画ということで、私は、基本条例に基づく計画ですので、条例自体の振れ幅というのはあると思うのですが、少なくとも今回は基本計画の骨子案の地域循環共生圏

の創生と持続可能な地域づくりというテーマだったと思うので、この基本計画の中身としては技術であったり、強靱化の話であったり、それに環境というも幅広い議論の展開が予想されるのですけれども、少なくともその地域循環共生圏の創生、持続可能な地域づくりということについて、今回の基本計画で反映できるのであれば、ある程度説明されたほうがいいのではないかと考えております。

最後3つ目ですが、SDGsを枠組みとしてひもづけされるというのはすごく大切なことだとは思いますが、そのひもづけの方がとても難しいなというふうに感じています。

国連の公用言語で示されているSDGsの目標と日本語の翻訳が違ったりして、日本語になったときに、狭くなったり、広くなったりして、それを地域というところに落としたときに、どのぐらい妥当なのかという検証も必要だと思うのですけれども、このあたりは引き続きご議論いただきたいなという思いがあります。

その上で、資料3なのですけれども、今回のこの募集要項の中に、今日のこの部会の資料が参考資料として挙がって、これを見て 2030 年のアイデアを出してくださいとなっているのですが、正直なところ、もしこれを見て未来を考えるとということであれば、例示されているプランですけれども、ホットな話題で、マイクロプラスチックというのはよくわかるのですが、今日の資料ではマイクロプラスチックについての文言とかなくて、温室効果ガスについて、温暖化の議論がございますので。それはそれとして、例の1つ目に、社会的な課題でもありますし、新聞などでも、単価が安くなれば紙製のストローであるとか、あるいは竹、そういった先進事業をもっと日本でやるべきだとか、外食産業を中心に 2020 年の東京オリンピックまでには、プラスチックをなくすというような業界の強気な発言も日本経済新聞に出ているくらいなので、進むかとは思いますが、この資料を見て、これを例に見て、プラスチックストローですかというのは、私もこの映像を見ているので、やはりこの亀はいたたまれないのですけれども、ちょっとそのあたりの例の出し方を、この資料で公開しているのかどうかというようなところ。まだ2週間あるということなので、これはちょっと今日の議論を踏まえていただきたいなというふうに感じました。

**【下田部会長】** 少なくとも募集要項の例に関しては。

**【岡本環境施策課長】** 修正は検討したいと思います。参考資料としてつけましたのは、骨子の案のところに基本的な環境に関わるデータを載せていますので、それを参考資料として見ていただけたらという趣旨でございます。全部お見せするのがいいかどうかは、改めて考えたいと思います。

**【藤田委員】** 手がかりはほしいところなのですが、この手がかりでよいのかということで、やはり現実的なことによって、かなり限定されるという部分もありますし、例示することによって、そんなハードルの高いものではなく、日々の暮らしが将来を見据えたときに、こんなまちであってほしいなということを目

由に意見していいんだというふうに捉えられるのか。後者のほうがいいに違いないのですが、個人的には一番でこのストローというのは、ちょっとどうかなという感想を持っています。

**【下田部会長】** まず、ちょっとこの資料3の話の先に済ませてしまいたいのですが、原先生のほうから視点を変えたらという話があって、今の問いかけは、今、市民の方が現在持っている課題について2030年までにどうしてほしいかみたいな問いかけと思いますけれども、なかなか2030年って設定しにくいのですが、例えば2030年に生まれてくる子供に対してどんなものを残したいのかとか、2030年に大阪に来る人に対してどういうことを誇りたいとか、という視点だと、多少ちょっと原先生が言われていたことに近づくのかなと。できれば原先生に何かうまい言い方、どうなのかな。2030年外してしまうというのもあると思いますけれども、その目標年である、2030年を使ってどうか。はい、どうぞ。

**【岡委員】** これは一体誰が答えるのでしょうか。一般の市民の人がホームページとかを見て、答えることをイメージされていますか。

**【岡本環境施策課長】** そうです。ホームページを見られた方を想定しています。

**【岡委員】** それでいつもどれくらい集まるのですか。

**【岡本環境施策課長】** 余り芳しくないです。ホームページで公募するだけではなくて、つながりのある環境団体や企業にも周知したいと思います。

**【岡委員】** ここに書いてあるアイデアは、2030年なので12年後ですね。1歳の子供が小学校を出るぐらいのイメージです。それは大人にとってみれば、未来とは言えません。子供のときに、未来の絵や文章を書くことによって大阪には未来があるということを感じていたことを思い出しました。子供に未来のことを聞くことは、一種の布教活動というか、環境教育であって、未来はまちがどうなっているかということに、子供たちや市民の人たちに関心を持ってもらうとていい手がかりだと思います。どんな生活を実現したいかというのを、私も子供たちに聞いてみたいと思います。大人たちが12年後どうしていますかというのは、発想が乏しくなってしまう、12年って大して変わりばえがしない感じがしてしまうので。

もし大人も対象にするのであったらもっと先の未来を見据えて、その途中段階である2030年ってどうなっているべきかということを知ることができると思います。

子供に、あなたが大人になったときぐらいを知ると、結構夢を持って書いてもらえるのだけど、大人に12年後を書きなさいというのは、あまり効果がありません。本当は何をしたいのでしょうか。

**【北辻環境局長】** 実は、今回の環境基本計画の改定の柱の1つと戦略でも書いていますが、市民、事業者との連携ということです。ですから、先ほど議論が出ていますように、我々大阪市の職員もそうなのですが、市民に対してこういうことをどれだけ考えてもらうかというのが非常に重要だと思っていて、こういう環境基本計画の策定という中では珍しい手法なのですが、こういう手法をとったと

いう。

**【岡委員】** これは、あなたがこれから12年間どんな生活をしますかという問いかけですか。

**【北辻環境局長】** 趣旨は、できるだけ真剣に、市民に対してそういう意識を持ってもらう、今の地球温暖化を含めた地球環境の問題も大変だという認識してもらって、まさしく自分の問題として捉えてくださいよということで。

**【岡委員】** 今おっしゃったように、今の生活、自分が何を变えますかという宣言を書いてもらうことはできると思います。一切割り箸を使いません、プラスチックストローはいただきませんか、何か自分の宣言文ぐらいでもいいのではないのでしょうか。未来というほどのものでもありません。

**【原委員】** 確かに12年後というと、近い未来というイメージがあります。前回実施された大阪万博というのは1970年、48年前になりますね。実は2015年に、ある自治体の社会ビジョンを住民参加のもとで(フューチャー・デザイン手法で)検討したとき、そのビジョン設計のゴール年として2060を設定しました。それは2015年時点から考えると45年先なのですが、2015年から見て45年前には大阪万博があった。45年間で何が変わったかということを考えると、いろんなものが変わったことが分かる。そのような過去の变化値やその変化に対する評価を踏まえた上で、45年後のビジョンを設計しようと住民自らが試みました。このビジョンづくりでは、通常我々が将来を考えたときの現世代の目線で将来を考えるというグループと、2060年の社会にタイムトリップしてもらい、2060年の社会に住む将来世代の人になりきってもらい、将来世代の視点から2060年ビジョンとこれから数年の間に実施すべき施策考えてもらうグループとを作り、それぞれのグループに議論してもらいました。現世代、将来世代グループそれぞれからは全く違う案がでてきました。上記のようなフューチャー・デザインの実践は様々な自治体で実施をしておりますが、これまでの実践に基づいて考えますと、2030年ぐらいだと、将来世代になりきるうえでは近過ぎる感じがややあります。近未来ですと、発想がやはり今の延長になってしまう可能性もあります。今回、SDGsも踏まえて検討されると思いますし、さまざまな要素を考慮されたうえでの年次設定だと思います。ただしも、検討の余地があるのであれば、少し時間軸を延ばすというのは検討に値すると思います。いずれにしても、繰り返しとなりますが、将来の大阪市に住んでいるだろう人たちの視点や観点というのをちゃんと取り込んでいく、ということが重要なことです。将来世代になりきって2000年の環境施策を考えてもらうことから、いろんなアイデアが多分出てくると思います。

**【下田部会長】** ほかに何か資料3について。どうぞ。

**【藤田委員】** 資料2については、今後進めていくことで決まると思うのですが、資料3について、この募集期間がありきというのであれば、2週間しかないという中で、やらないよりはやったほうが良いと思うのですが、やっているだけではなくて、やはり内容のあるものにしていくことで、基本計画自体にもア



アイデアを反映させるとか、反映させないとか、こんな意見がありましたとか、そういう話になってくると思うのです。

確かに、今日ご説明があったように、多様なステークホルダーの参加をどのように考えていくのかというふうなことで、アイデア募集という方法も参加のあり方の一つかもしれないですけども、先ほど岡先生がおっしゃっていたように、もしインターネットで、これ出してくださいといって、どのくらい来るとかというのを考えると、市からのお願いというのをまめにチェックしている層って、こういった施策に非常に興味のあるご高齢の方が多分多くなるのではないかなというような直感的にはそう思うのです。

むしろ将来を語るには、将来の大阪を担う人たちが、どういふふうに考えていただけるのかということであれば、原先生のご専門かもしれないのですが、8世代ぐらい先まではちょっと難しいまでも、やはり子供たちの描く未来像というのは、ぜひ施策に反映していただきたいという思いが個人的にはありますので、来年度のカリキュラムでないと無理かもしれないですけども、そういった環境教育の一環として、教育委員会のご協力を得つつ、何か意見を集めるようなことをご検討されるのか、あるいは、何でもいいんですというふうな聞き方をすると変な意見が出るという意見もありますけれども、例えばこの計画の中に、低炭素とか、循環型社会とか、住みよいまちづくりという、一応軸があるので、その軸ごとに、例えば住みよいまちだったら、どんなまちがいいですとか、循環型のそういう話だったらこんなのがいいですとか、大きな軸だけ示して、それに対する何か意見を言ってもらおうとか。

すること自体は賛成なのですが、やりましたということだけで終わるようなことは避けたいなど。せっかくここで議論をする機会もありますので、やり方とか内容とか、もし15日が決まっているのであれば、ちょっと修正できる範囲で、よりよいものに変えてほしいなどは思います。やはりこれは15日から始まるのはもう決定なんですね。

**【岡本環境施策課長】** 修正については大丈夫です。ただし、第2回目の部会には間に合わせたいと思っておりますので、そこまでに一定の期間をとりたいということはあるのですが、何日からというのは決まったものはございませんので、見直しをさせていただきたいと思います。

**【岡委員】** ここに書いてあるような感じのアイデア募集であるのであれば、このタイトルを変えて、「私のライフスタイル転換」とか、この10年間の生活をどう考えるか、自分なりにどういふふうな生活するかとか、あるいは今から12年ぐらい我慢できそうなことを書いてもらうようなことはいかがでしょうか。まず自分のこととして書いてもらう。あるいは、企業とかでも、企業の宣言でも、あなたの企業でどんなことをやってみますかと問いかけてみる。

**【藤田委員】** どちらかに大きく振るか、12年後を考えるかぐらいで、今からどちらかにするかを決められたほうがいいのではないですか。

思いつきで、拙速になってしまいますが、例えば今回は今回の方向があるとして、もし予算とか時期が間に合うのであれば、夏休みの課題の中で、その1つとして、自分のまちの未来を考えようみたいな。そういうことをすると、非常に嫌らしい話ですけども、大体作文と作品というのはセットで宿題で学校ではついてきますので、そのときにそういった自分のまちを、わがまちを考えようとか、ふるさと絵画展とか、結構いろいろな自治体さんが、そういった子供たち向けの仕掛けというのを、夏休み期間の課題の1つとして設定しているような事例もありますので、それは未来デザインとか、環境に良いのかどうかとか、環境関連のそういう子供たちの意見を募集するのはたくさんあり過ぎて、何かやはり特徴を出さないと、やはり少ないとなると、戦わないといけないとは思うのですけれども。今、多くの自治体さんがやられている1つとして、夏休みにあてるといのはあります。

**【下田委員】** 優秀作には何か商品が出る、そういうのも。

**【岡本環境施策課長】** 副賞は考えていなくて、計画に載せるとか、イラストをいただければ、それを載せたりとか、ということは考えたいなと思っています。

先生がおっしゃっていた夏休みの宿題ということで行きますと、環境局では、毎年夏にポスターコンクールという取組みを行っておりまして、今年は生物多様性をテーマにしましたけれども、2000とか3000とかいうぐらいの応募をいただいているので、来年の夏であれば、そういう取組みも可能かなと思います。

**【藤田委員】** 例えばアイデアを公募するという趣旨でされるのか、広く参考にといい趣旨でされるのか、そのあたりでも変わってくると思うのですけれども、基本計画にそういった施策アイデアを反映させるという趣旨であれば、そんないろんな仕掛けも必要だと思いますし、ただただ皆さんに出してもらえばいいということであれば、人権的な俳句をつくってもらうとか、そんなのでも集まるでしょうし、あるいは環境社会について原先生がおっしゃるようにワークショップという形で多様な世代の、多様な人たちに集まってもらって、設定したテーマで、府市がやられているように総合学習を進めていながら、経験値を高めてから、反映させるのもいいでしょうし。

**【原委員】** ここで募集されるアイデアは何かしら今後の施策に反映されていくようなことをお考えなのかなというふうには思ったのですが、有効に反映されていくような枠組みを是非お考えいただきたく思います。

その上で先ほど申しましたように、ポイントとなるのは、将来につながっていく、将来世代の事を慮るといふ観点から、大阪市の未来の有り様を皆さんに考えてもらうということであって、それは非常に意味があることとは思います。

この資料のアイデア募集の事例に書いてある事項はやや目の前のことといいますが、直近のことを

いろいろ書いているように見受けられます。これらについても、将来の視点からもう少しダイナミックに検討できるようなものになればいいかなと思います。また、ワークショップというのは大変良いアイデアだと思っておりますが、準備や実施に時間がかかるものですので、この次の展開として可能性を検討するのがいいのではと思っております。そのようなワークショップでの具体的な熟議に入る前の入り口として、大阪市の未来ビジョンづくりを先導していくという、そういったメッセージが込められた施策になるというのではないかと思いますので、そのような視点からも本アイデア募集の枠組みを戦略的に考えていくのがいいのではないかと思います。

**【岡委員】** 思いつきですがちょっとだけ言わせていただくと、宝塚市役所で、市役所の職員の方のワークショップをやったことがあり、宝塚市内でやりたいことを考えてください、好きにしゃべってくださいと言ったら、そんなことを問われたのは初めてだと、宝塚市役所の方がみんなそうおっしゃっていました。市役所の庭で何をするとか、建物で何をするとか、川で何をするとか、今まで考えたこともなかったけど楽しいとあって、みんないっぱい意見を出してくださったのです。今回、せっかく市内横串と言っておられたので、市役所にお勤めの方全員に、大阪市の未来について何か考えなさいとくと、役所内の普及にはなると思います。あなたがとにかくこの12年後どう変えますか、みたいな。2030年に向かってどう変えますか。こういうのがあるんですけどというのをとりあえず読んでいただいて、まず皆さんが考えるというのをやると、横串の手間も相当省けるのではないかなと思うんですけど。これはアイデアです。

そこはやはり、その次ぐらいで市民に行くかなという気がします。相当いろんなアイデアが出るんじゃないですか。

**【下田部会長】** 今までのいろんなご意見ありました。いただいた内容を環境局で咀嚼していただいて、使えるところは使っていただければ。

何かございますか。ここの部分について。よろしいですか。では、開始時期もあれですけれども、いろいろ出ましたので、できるだけ活かしていただいて。いろんな方のご意見というようにしていただければと。

では、ちょっとほかの資料に戻りましょうか。何か続いて。どうぞ。

**【今西委員】** 10 ページに目標として何々を達成すると書いてあるのですがけれども、先ほどの横串を通すという話から言いますと、例えば「新・緑の基本計画」の目標を達成する」という書き方では、先行する計画を単に追認することになってしまいます。分野別の基本計画の目標を達成した上で、さらに何かプラスするものがあるのか、環境基本計画としての目標がもう少しきちんと書かれていた方がよいのではないかと思います。

**【下田部会長】** 私から、横串というか、SDGsの使い方なのですけれども、前ちょっとグリーン建築をやっている人たちとSDGsをどう使うのかという議論したときに、結局、統合なんですね。どういう統合をするかという、自分のやっている仕事を1番から17番までに照らし合わせて考えて、いわゆるシナジー効果、その前にグリーン建築をやっている人たちは、例えば住宅を断熱したら風邪をひかなくなつて病院代が助かるとかの話が出たけど、あれをもっと広げると、こういう話になるのかなと。

結局、温暖化の対策をやられている方が、僕は13番だからと言ってしまうと意味がなくて、そのやっている温暖化対策が、1番で見たところどうか、2番で見たところどうかというふうにやっていくことによって、財政的にも、人的にも、資源の乏しい各行政の方が、できるだけ最大の効果を上げる。

同じように、例えば、万博の地域の開発をやる人が、みんなが1番から17番を全部頭の中に入れて集合すると、それぞれが、17番の専門の人が1人で頑張るより、みんなで17番のことを考えてあげることによって効果が上がるというのが、多分このSDGsが出てきた意味なんだと思いますよ。

これ、出てきた途端に僕は13番ですからと言ってしまうと、前と同じだし、だからこの目次のところに切って載せてやると、対策で切るとどうしても切り取るしかないのだけれども、具体的に低炭素化の都市づくりと書いてあるのを、具体的に何か施策に落としたときに、それが「うめきた」とかという具体名を持ったときに、じゃ、それは3番で見たらどうなんだ、4番で見たらどうなんだというふうに考えていって、広げていくことが、SDGsの意味で、それが多分横串ということだと。

要するに、人がざっとつながる横串もあるけど、一つ一つの事業が横に広がっていくということなんじゃないかなと思うんですけど、これをどう計画に書くかですね。

**【北辻環境局長】** 今、部会長がおっしゃっていただいたとおりでと思うのです。それで、この議論をする前に、環境局の担当係長を集めて勉強会をやったんです。

自分が所管する業務がSDGsの何番に影響を与えるかという、全部整理させたんです。それを整理させた係長の感想というのが、実は、自分の仕事がかこれだけ幅広い影響を持つというのが改めて認識できたというふうな感想も多々ありました。

ですから、そういうSDGsにひもづけをすることによって、できるだけそういう縦割りではなしに、自分の仕事が基礎自治体としての行政全般に影響しているということをわからせる。それで、それをやることによってSDGsというものが非常に高尚な目標の達成にも貢献しているということをわからせる。それをまず環境局でやってみて、かなり効果があるように思いましたので、まずは環境基本計画をベースに、ちょっとそういうことを他局の事業を含めてやっていきたいなというふうに思います。

**【下田部会長】** それで、その後ろのほうに書いてあるのが、経済の問題とかですね。イノベーションとかというのでいうと、もう工夫しないと、SDGsでもなかなかそれが出てこない。何かそこへ行くと大

阪市が何か率先してやることによって、あるいはイノベーションの種を、その都市の中で実現するとか、そういうことをやることによって、ブランドがついて、技術なり、制度なりが、大阪の経済を支えていくという成功ストーリーになるのだと思うのですけども、そうなると、また、これどうかなというようなね。

**【北辻環境局長】** 今はなかなかねたが限られております。

**【下田部会長】** さっきご質問があったみたいに環境先進都市と書くというのは、要するにそういうことを率先してやるのだという宣言にならないと、と思いますけどね。

**【北辻環境局長】** 実は、そこに積極的に打って出たいというのが、思いとしてはありまして、この環境基本計画の一番特徴的なところというのは、その第4章の施策展開の戦略だと思っています。

第3章の構成までは、基本的な、要するにこれは各法律、各行政施策の体系に従った内容ですので、余り変えることはできない。今、環境基本計画改定までに進んでいる、いわゆる地産地消とか、地球温暖化とか生物多様性とか進んだ都市制度の内容を盛り込むということで前に進んでいきますけど、ということだと思うのですけど、特徴的なのは、やはり第4章の戦略だと思っております。これは、国は国なりに第5次環境基本計画で、国としての戦略を挙げておられるのですけれども、我々としては、やはり基礎自治体として、基礎自治体の特徴を持った戦略を挙げたいなと思っております、それがまず第2節の第1項に書いています、地域、市民、事業者との連携強化ということで、まさしく先ほど地域についてどう考えるのかというご質問がありましたけども、やはり地域循環共生圏の考え方というのは非常に重要だと思っております。将来的に大阪市は人口減少の中で、中心部については人口は増えていきますけど、周辺部の人口は減ってくるという、消滅行政区というようなことも考えられますので、そうしたことの中で、やはり地域、市民、事業者との連携強化ということを戦略に位置付けている、そして経済、社会、環境の統語的な向上も、基礎自治行政というのは、国のような縦割りの行政と違いますから、まさしく大阪市の中で、そういう各種、福祉、教育、環境、それとハード面を含めての総合的な行政ですから、経済、社会、環境の統語的な、行政的な取組みができるし、その中で、第3項、新しい技術、イノベーションの創出・活用というのがあるんですけど、今、大阪市の中で取り組んでいます、もちろん健康等に関するイノベーションもそうですし、エネルギーでも地中熱とか面的利用とか、ちょっと他都市と違う、大阪市の特性を生かしたそういうイノベーション的なことについては、そういう形で、戦略として位置づけをできるんだというふうに思っています。

第4項の国際戦略の強化、まさしく大都市大阪、もう既にアジアの諸都市に海外支援やっていますから、そうしたことについても、位置付けていきたいと思っております。

第5項で持続可能で効果的な行政運営というのは、まさしくそれを支えるのは、我々、大阪市の職員のあり方だと思っております。もちろん冒頭からいろいろご指摘いただいておりますけれども、そこをきつ

ちりと職員間で共有できるようなたてつけ、環境基本計画を改定して、その上位計画を改定していつてやっていきたいと思っています。

**【大石委員】** 骨子案を見ていると、SDGsとか、パリ協定とか、市民から遠いところにあるような感じを受けるのですけど。おっしゃられましたように、一番市民に、国民に近い基礎自治体ということであれば、もう少し身近な書き方にされていたほうが、意見が出やすいのじゃないかなというのを私は思うのです。

藤田先生がおっしゃいましたように、例えばマイクロプラスチックといったって、結局、何か、例えばマイバッグを持って買い物に行ってプラスチックバッグをいただかないとか、そういうことまでつながっていくかということ。身近な表現にされたほうが、何かSDGsとか、パリ協定といったら何か国際的で、物凄く遠いところにあるようなイメージを受けます。それが、身近な生活、ライフスタイルの変革でもって何か達成できるというような書き方にされて、私、素人なのであれですけど、やはりそんな感じがするのです。市民の立場で言ったら非常にわかりにくいのと違うか、遠いところにあるんじゃないかというイメージを受ける。これは感想ですけど受けたと思います。

**【下田部会長】** さっき藤田先生のお話であったみたいに、SDGsの17の説明が地元の言語に完全に忠実に訳されているわけではなくて、国際的に見たときの訳し方と大阪市に落とし込んだときの意味が違う。例えば貧困なんか全然違うんです。

国際的に見たら、大阪市は多分貧困問題等はほとんどない、大阪市の中での貧困問題はあるが、そういうふうに、何かちよつとこういう作業をお願いしていいのかわからないですけど、17個を大阪市に落とし込んだときにどういう意味があるのかというような、基本計画の中で見えるかというような、SDGsとって挙げる以上は、何か説明があって、市民にわかってもらえるような、そういう施策をつくらうという、それをSDGsが難しくしている部分があるかもわかりませんが、何かちよつとわかりやすく伝えていただくという。

**【今西委員】** 行政文書としては、やはりSDGsは使っていきたい言葉であると思います。しかし、SDGsという言葉を使っていくとすれば、市民向けのわかりやすいパンフレットをつくるとか、子供向けのパンフレットをつくるとか、もっとわかりやすい資料を別途つくるという形もあるのではないかと思います。

**【下田部会長】** 逆に、難しい資料をつくらないというのもある。

**【今西委員】** しかし、行政の現場においては、上位計画との整合性を説明するためにSDGsは使いたい言葉ではありますね。

**【岡委員】** 今のご意見に賛成なのですが、施策をどのように展開するか戦略と書いてあるんですけど、本当の、どうやって市民に広げるかとか、方法的な意味のことが全く書かれていないので、そこ

のところをやはり1つ追加しないといけないのではないかなというふうに思います。

5番のところに、職員の質の向上と書いてあるのですけれども、市民の質の向上、意識の向上はとても大切で、それをどうやって市民に広く広げていくか。

インバウンドの話がありましたけど、大阪に来たらゴミが放りにくいね、トランクは放っていけないよね、というふうな雰囲気を出したいのに、ぼんぼん放られていくのは、大阪空港、関西空港だけかしらと、私はいつも見ているのです。大阪だったら何でも処理してくれるみたいな感じがあるのかなと思っているのですが、そういうまちではないよというところを広報するというのも大事。市民に対しても、インバウンドの外国人に対しても、環境のことをとても配慮している市であるということを、広報活動を通じて広めていただきたい。非常に身近なところですよ。

そういうのも入れば、より第1項のところ効いてくるのではないかなと。

**【藤田委員】** 事前の説明で、SDGsについていろいろ意見を申し上げ過ぎて、混乱をきたしているのではないかととても反省しているのですけれども、考えてみますと、例えば11ページの基本的な施策の関係に、それぞれ17の目標で、関連する部分を挙げていただいているような形になっていると思うのですけれども、1節とか2節というのは、社会にあるテーマを社会に向けて何をしているのかという話で、4節とかになると、多分全ての循環型社会にせよ、低炭素社会にせよ、全ての主体の参加と協働が必要になってくるという話で、節になったら一つ一つ分かれているのですけれども、大きなテーマ設定からすると、低炭素化社会の構築という話と主体の参加と協働という話はまた別の軸で語られるものだと思います。

そうなってくると、例えばですけれども4節の全ての主体の参加と協働というのは、17の目標全てについて、そうだという話だと思うのです。それでいうと、「環境教育・啓発の推進」1、2とかだと、同じ4、12、13、14、15、17になっているのですが、「環境配慮の推進」となったら3つ減っちゃって、これはやっぱりパートナーシップが必要になっていくものだし、1対1対応で当てはめると、いろいろそれを当てる人の濃淡というのが如実にあらわれて来がちなので、そのあたりのところも出す中で、個別に1対1対応、これがこれとするやり方も1つですけれども、全ての目標に対してからすべての主体の参加と協働ですとか言い切ってしまうとか、何かそういった工夫があったほうが、このSDGsについての普及啓発は一方では必要だと思うのですが、もしもつげするという場合には、そういったこともお考えになられたほうが、かっちり分けやすいところと、何かこれも入りそうだし、これも入らなさそうだしというようなところがあると思いますので、それは今後、もっといいものになるのではないかなというふうに期待します。

もう1点、先ほど局長がおっしゃったように、やはり12ページ、13ページ、すごく大切な機能だと思うの

ですけれども、そうだとすると、この13ページの図なのですが、5つが大切というのはわかっているのですが、その中に入ってくるものが、果たして市民の人にとってわかりやすいものなのかどうか。多分事業名に近いものがそのまま載っかっていて、例えば「福祉と連携した使用済家電収集」事業とかだとカッコとついてくるようなイメージで、バランス良くそれぞれの課で、環境対策事業の中のものを抜いてこうということになっているのかもしれないのですが、書きぶりが、「国産木材の利用促進」というのと、例えば「福祉と連携した使用済家電収集」というのであれば、範囲というか書き方というのに、より具体的な施策がイメージできるものと、広いテーマを対象としたものというふうな形で、随分ご苦労をされたんだなということは重々承知の上でお伝えしているのですが、なので、もし市民の人がわかりやすいようにということであれば、そのあたりの書きぶりとか、順序とか、そういったことをご検討されると、やられていることは本当に多種、多岐にわたって、環境への配慮に関わる事業っていっぱい展開されているというのは存じていますので、その見せ方というところを確認されると、もっと市民の皆様にも理解してもらえるのではないかなと思います。

**【下田部会長】** ほかに、はい、どうぞ。

**【今西委員】** 12ページの戦略についてですが、中間期日の2024年までですと、6年間くらいあります。しかし、6年間の戦略としては、何か具体性に少し乏しい書き方ではないかなという印象を受けました。

できることであれば、この6年間でこんな項目についてこんな戦略を実施しますということを具体的に書いた方がわかりやすいのではないかと思います。

**【北辻環境局長】** ちょっと今日の資料にはそこまで書き込めていないのですが、それぞれ、先ほど申し上げましたように、我々、今まで地球温暖化対策実行計画とか、一般廃棄物処理計画とか、エネルギー地産地消とか、個別計画を策定している中で、第1項から第5項までの中身というのはかなりありますので、それは完成型としては全て網羅していくような形なのです。

ですから、次回か、できるだけ早期の部会でも、そういう形をお示していきたいと思います。

**【原委員】** 12ページに記載の「戦略」というのは非常に大事なポイントだと思います。それで、ここに載っている事例はすごく大事な観点だと思うのですが、実際のところは戦略というよりは、どちらかというと方向性の類に見えます。

戦略というのは、まさに今おっしゃった話とつながるのですが、狙いを定めて、これからどういう風に育てていくかという、そういう意味合いがあると思うので、それとしてはここで記載されている事項は少し話が若干ぼんやりしているような気がします。

それと関連して13ページなのですが、五角形の図がありますが、この中には個別の事項が書いて



あります。これらの事項は、いろんな条件や背景の下で選ばれたものと思うのですが、ここではこれらの記載事項と先ほど述べた5つの戦略というのが関わってきますよ、ということが書かれていると理解しました。この関わり合いというのは、それぞれ事例ごとに異なるはずですが、それが明確になっておらず、抽象的な絵になっているように思います。

ここについては、大阪市さんの強いメッセージのようなものが、全部でなくてもいいのですが、この5つの柱のところ、具体的に何をしたいのかというメッセージが少し入ったほうがよいのではないかと思います。

例えばイノベーションについて考えてみると、インセンティブの仕組みや、社会実験などを含めて、普及や社会実装していくためには、社会的な仕組みやシステムが必要です。そういったものまで踏み込んで検討しているというメッセージが出れば、これは戦略だということで、メッセージを明確に示すことができますし、附随する戦略も書きやすいと思います。

そのあたりの書きぶりというか、メッセージ性というか、そういったところをもう少し出されるほうが、読む側としては非常にわかりやすくなると思います。

また、これらの文書は、市民の皆さんにも見ていただいて、皆さんにもこれらの施策を人ごとじゃなく、自分ごととして理解してもらいたいわけです。SDGsについても、大阪市としてこういう戦略でいくのだというメッセージを明確にしたうえで、市民の皆さんの生活とも関わってくるというメッセージが欲しいように思います。市民の皆さんも自分ごととして考えていただくことにつながると思います。アンケートの実施についても自分ごととして未来を考える1つのきっかけになることが大事だと思います。

**【下田部会長】** どうでしょうか。それがどれくらい大変なのかというのはありますけど。

**【北辻環境局長】** この五角形の中に書いてあるのは我々が書いているんですが市民に対して、きっちりわかる形になっていないというご指摘は全くそのとおりでございます。

ただ食品ロス、廃棄物削減と書いているのですが、これは、今、我々が思っているのは、例えば食品ロスを削減する、それをフードバンク、そういう形で福祉につなげる。そういうことで食品ロスの削減を図っていくというか。

ごみ収集輸送の改革というのは、これはコストの削減、それと質の向上ということで、地域に入っていて、地域と連携して、災害時のそういうまちの掛け声も含めて、災害時にそういう災害ごみの対策。また、「ふれあい収集」ということで、高齢者の見守り事業を含めた展開。

福祉と連携した使用済家電収集事業というのは、例えば使用済家電収集を、その整備を福祉事業者と連携することによって、障害者のコミュニティ活性とか。

地中熱や水素などの新エネルギーの活用というのは、そういう新しい、大阪に適した、地中熱、水素、

そういった新エネルギーの活用することによって、もちろん低コスト、コスト低減になり得るというシステムを活用するのですが、同時に災害時に対応とか、また、経済、産業の基盤というふうな競争力の強い大都市をつくっていく、それぞれ1つの項目は、全てにわたっていますので、それが全然書いていないと言われればそのとおりなので、ちょっとその辺を市民に対するメッセージを含めて、わかるように、個別に書いていきたいと思います。

**【原委員】** 今おっしゃっていただいています、そういったものが、国際展開にどういふふうにつながるのか、そして結果的に世界が着目するようなイノベーションとしてどう育つのか、そういった道筋が示されることが戦略だと思います。

このような具体的事例が幾つかあると、ここに記載されている絵がより具体的な意味を持つこととなり、読む人の目にも入ってくると思います。例えば、エコカーの普及と5番目の持続可能な運営がどう関わるのかという点がぼんやりしているように思いますし、読み手からするとやや分かりにくいようにも思います。全部の事例を書く必要ないと思いますが、何か、具体的な事例や事例同士のつながり、ストーリーを明確に示すことで、より意味のある情報を提供できるように思います。

**【北辻環境局長】** まさしく今おっしゃっていただいたとおりで、国際展開の強化、持続可能で効果的な行政運営、上に地球温暖化の緩和策、そういうことを書いてあるのですが、例えば、我々この間に経験で思っていますのは、ベトナムのホーチミン市に対する低炭素都市形成というのをやっているのですが、その中で向こうのホーチミン市の人と話をしている、やはりそこで環境施策を展開しようとすると、財政的な制約が増えて、例えば競争入札の原則で、ライフサイクルコストを見てもらえない、いかに安いイニシャルコストで事業を採択するかという、そういう壁があるんだということを聞かれました。

それって、もっと言えば、我々がこの前、財政局でやっていた話なのです。大阪市の財政局なり、契約管財局と議論をしていたテーマが、今まさにホーチミンでやっている。それが持続可能で効果的な行政運営ということで、例えば、我々どういふふうに乗っかっていくかということ、地球温暖化対策実行計画を進めるために、電力入札というのをやりました。今まで各局でやっていたものを全部環境局でやって、毎年3億円ぐらいの財源を生み出すと。それを持って、投資をするよと。しかも、その投資については、単年度のイニシャルコストで見るとはなしに、ライフサイクルコストで評価してくださいよという仕組みをつくって、持続可能な効果的な行政運営を進めていく。

そういった事例を、国際展開の強化としてつなげていきたいと思っていますので、まさしくその辺、先生がおっしゃっていただいたように、トピックスをたくさん持っていますので、展開をしていきたいと思えます。

**【下田部会長】** ちょっとこれは計画のことですけど、第5章の1節の体制なんですけど、最近、国際会

議に行って、都市改造をやってCO2を下げるみたいな研究をやっている人がアメリカにいて、その研究成果をどうやって自治体に提案するのか聞いたら、サステナビリティ・マネージャーという、都市計画局とか、環境局というのに持ってくるのではなくて、そういう横串のまたがる、マネジメントする担当者が別にいるという。それから、さっきSDGs未来都市の話がありましたけど、昔、環境モデル都市に通ったところと、落ちたところを分析した人がいて、結局、それは環境局から出たものは落ちています。やはり市長に近い統合部局、総合計画とかやっている部局とかが出ているところのところを通る。結局、本当にCO2を削減したりするような環境モデル都市的なことをやろうとしたら、やはり都市計画はそういう道路とか、いろんなどころをつないでいかなければいけないから、そういう、今日のテーマになっている横串のやる気があるかどうかというのが、どうもその辺の話。

そういう意味でいうと、ちょっとなかなか計画の中で新たなポストをつくるとは書けないですけど、何かちょっと外から見たときに、横串を通すために何かする人がいますとか、窓口がありますとかいうのは、いいような気がします。

**【岡委員】** 今さらの質問なのですが、11 ページに書いてある施策の体系が書いてある、この施策というのは、全て所管があるんですよね。その所管局に尋ねることなく、今は横に張りつけてあるわけですか。

**【岡本環境施策課長】** 今はそうです。

**【岡委員】** 横串とかいう言葉を、ちゃんと見える化するというか、やはり所管局、今のところこういうところが所管していますよという、この17のSDGsをちゃんと説明をして、そして、自分たち、きっと重要なのは全部ですと言うところもあるし、こことここは結構強力にいけますというところと、色合いがあると思うのです。

まず17きちんとした説明書をつくって、それをそれぞれの所管の人に見ていただいて、色合いをちゃんとつけてもらう。その作業の中で、これを17のうち8個あるけども、ほかは関係ありませんなんていうことはだめですよ、きちんとお伝えをして、さらに所管課として効果的なものを選んでもらうという。そういう作業をそれぞれの施策ですることによって、大分意識が変わるのではないかなというふうに思います。

やはり先ほどおっしゃったみたいに、17全部を一応念頭に置いてくださいねということを示すことが結構大事。

それができているから、先ほどおっしゃった13のことが可能になるわけですので、横串つぼく書いていただきたいなと思います。

**【岡本環境施策課長】** 作業の中では。

【岡委員】 やっておられるのですよね。

【岡本環境施策課長】 はい。これは目次だけですけれども、この目次には当然具体的な事業がたくさん盛り込まれています。その一つ一つを精査しているところでございますので、その事業ごとに、どういったゴールと関連するかというひもづけを整理したものが背景にはあるということになります。

【岡委員】 その作業の中で、部局としては所管は違うけれども受ければよいとかいうのもまた見えてきますよね。

【岡本環境施策課長】 はい。

【岡委員】 そちらの提案をするのは、今回の中で大事。それが恐らく13 ページのようなもつと強化するような話になるのではないかと思います。このあたりを見えるようにしていただきたい。そうするとこうやって横串が通ったんだというのが見えるんだなど。

【下田部会長】 ほかにいかがでしょうか。何か最後によろしいですか。

では、今のいろいろ出ていましたけど、これを進めていただいて、また募集のほう、よろしく願います。

それでは長時間、お疲れさまでございました。進行を事務局にお返しいたします。

【司会】 委員の皆様、長時間ご議論いただきましてありがとうございました。

それでは、これもちまして第1回環境基本計画策定部会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。